

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年2月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

緊急時における中央制御室と 緊急時対策本部との連携訓練を実施しています

- 当所は、シミュレータ（中央制御室を模擬）を活用し、プラントの過酷事故における中央制御室と緊急時対策本部との連携訓練を実施しています。
- 訓練では、全ての交流電源が喪失して燃料を冷却する設備が全て停止するような状況を想定し、当直員がシミュレータの制御盤を使い事故の収束に向けた対応にあたるとともに、プラントの状態変化等を当直長から対策本部へタイムリーに連絡し、情報の共有を図りました。また、対策本部でもプラントの状態変化をもとに、当直長へ対策を助言する等、過酷事故対応のサポートを行いました。
- それぞれの役割や責任を明確にし、情報共有を図り、迅速、的確な対応が行えるよう訓練を重ねています。



シミュレータ室での事故対応



所内電源の受電状況を確認



対策本部でプラント状態の報告を受ける様子



プラント状態の共有（対策本部）

非常時に電気を供給する ディーゼル発電機を点検しています

- 1号機では、通常使っている電気が止まってしまった場合に電気を供給するための、非常用ディーゼル発電機の点検を実施しています。
- 非常用ディーゼル発電機は、1～4号機にそれぞれ3台ずつ設置しており、1台が点検中でも、他の非常用ディーゼル発電機で、燃料冷却に必要な電気を供給できるよう、点検時期が重ならないよう計画しています。
- 今回点検中の非常用ディーゼル発電機は、平成23年の震災当時、津波の被害により使えなくなりましたが、平成25年5月に復旧が完了した後も、機能を維持するために、定期的に確認運転や点検を実施してきました。
- 点検終了後、分解、点検を行った部品を組み立てて、試験運転を実施し、最終的な健全性を確認してスタンバイとなります。



非常用ディーゼル発電機（ディーゼル機関）



分解した部位の清掃



分解部品の組み立て



津波により被害を受けた発電機
（平成23年3月21日撮影）

発電所周辺の潮位等を常時測定し 監視しています

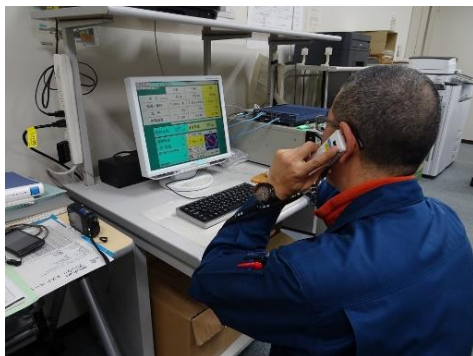
- 当所では、海気象観測装置を設置して、発電所周辺における潮位の変動や風速、雨量等を観測しています。
- 観測した潮位等のデータは、中央制御室と事務本館に設置しているモニターで監視できます。台風や地震等が発生した際は監視を強化して、海側の設備への影響の予測や港湾での作業の災害防止に役立てています。
- 当該装置は、信頼性の高いデータを常に保つために定期的な点検を行っており、1月末の点検では、当該装置の清掃、部品の交換等を実施しました。また、観測局で測定したデータが各モニターに正常に表示されていることの確認も行いました。
- 今後も当該装置の機能を維持していくための点検を確実に行っていきます。



検出部分

海面

潮位を測定する検出器（観測局）



モニターの表示確認

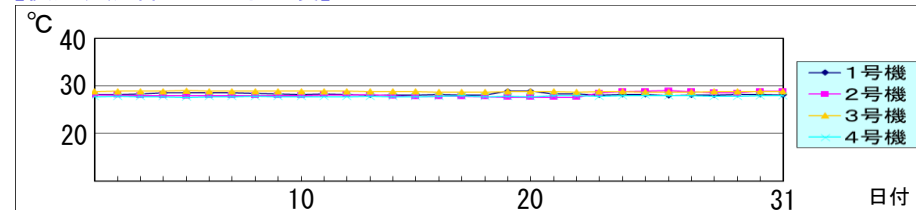


各パラメータの表示

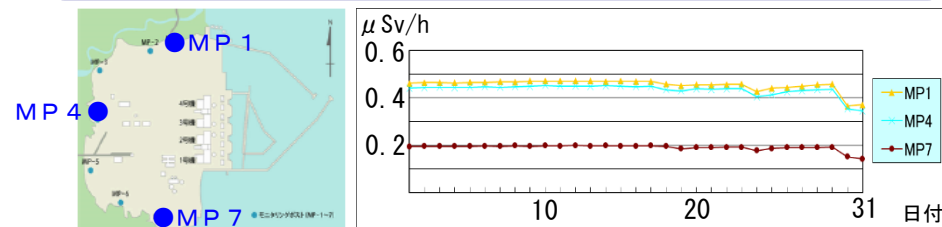
燃料の冷却状況（1月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト（MP）の計測状況（1月分）



計測地点

設置しているMP 7基のうち、3基を代表で記載しています。

さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



作業現場に隠れた危険箇所を見つけて災害発生の防止につなげます

- 作業現場に隠れている危険箇所の早期発見や災害の未然防止を目的とした「危険予知研修」を継続的に実施しています。
- 以前本紙で紹介した研修設備に加えて、危険を予知する幅を広げるため、火気や危険物を取り扱う作業を模擬した設備を、このたび新たに開設し、2月から研修を実施しています。
- 今後、新たな設備も使用した研修を継続していくことで、さらなる危険予知のレベルアップを図り、災害防止に努めていきます。



火気作業場における危険箇所の確認